

「人生の大病は、只だ是、傲の一字なり」王陽明の言葉です。

自民党の現状をみても、まさに、この『傲』の一字に表せます。

昭和三十年の立党宣言には「政治は国民のもの、即ちその使命と任務は、内に民生を安定せしめ、公共の福祉を増進し、外に自主独立の権威を回復し、平和の諸条件を調整確立するにある。われらは、この使命と任務に鑑み、ここに民主政治の本義に立脚して、自由民主党を結成し、広く国民大衆とともに、その責務を全うせんことを誓う」とあります。

今一度、自民党は、この立党宣言の原点に回帰し、清々しい政治を、日本に取り戻す必要があります。即ち、「傲」の一字を、常に警戒し謙虚さを心に秘めて、正々堂々の政治を全うしてもらいたいものです。内外に山積する諸問題を、早く正しく解決してもらいたいものです。

これは、日本の政治だけの問題ではありません。我々中小企業の社長が、今一度、創業の原点に戻り、その理念・志・魂・理想に磨きをかける必要があります。

そもそも、何故、傲慢になり、反省を忘れ、道を踏み外すのでしょうか。

その原因の最大のもの、**「学び」を粗末にしていること**です。独断と偏見と、小さな成功体験で、果たして、これからの時代を乗り越えて行けるのでしょうか。

次に、**「師と友」を持たぬこと**です。自分が正しい、自分が一番知識もある。自分が決断したことで現在の地位を築いた。このことが、次の失敗を誘発するかも知れないのです。重要なことは、人生の師を持つことです。心置きなく語り合える仲間を持つことです。

「人、学ばざれば、道を知らず」と礼記にあります。経営者として、正しい道を知らず、どこに向かうのでしょうか。社員を路頭に迷わせていいのでしょうか。

論語には「学ぶに如かざるなり」とあります。やはり、古典や先哲に学ぶことが、経営の王道でしょう。

幸い、我々は日本に生まれ、日本に育ち、日本の経営をさせてもらっています。

強欲な欧米式の経営には、心のどこかで、ひっかかるものがあります。その、ひっかかりこそが、我々日本人の良心です。真心です。「傲」の対極にあるものです。

世界が、大きく変わる時に遭遇しています。この時こそ、我々中小企業の社長が、日頃のコツコツとした、小さな努力や、心がけて、楽しく愉快に乗り越えて行きましょう。

今月のポイント

学び反省し素晴らしい日本を

創って参りましょう。

